

グリーン社会

現状の経済（貨幣経済、資本主義、自由競争）を維持しながら、現状の資源の浪費や環境破壊の改善をめざした社会「グリーン社会」について述べる。

●原則

- 環境保全の義務 ⇨ 費用は製品コストに含む（グリーンコスト）
- 資源、廃棄物は再生循環の義務⇒費用は製品コストに含む（グリーンコスト）
- 費用負担は消費者、保全義務は製造者

●その結果

- 製品コストは大幅アップ（ざっと10倍）
⇒大量生産、大量消費、大量廃棄は減る
- 処理できないもの、大きな危険のあるものは製造できない
⇒原発、核兵器は減る。農薬、化学物質は大幅に減る
- エネルギーの枯渇、エネルギーコストの高騰
⇒自動車や電気製品は大幅に減る
- 工業から農業へUターン
⇒農業が復興、自給自足をめざす自治体が増える

●グリーン社会の課題

- 原則を守らない国、企業、個人が多いと「グリーン社会」は実現しない。
- 仮に「グリーン社会」が実現しても貧富の差は解消しない。豊かな者は富を蓄積しぜいたくをし、貧しい者は飢餓と貧困に苦しむ。戦争の危険もある。
- 「グリーン社会」は資源の浪費や環境破壊は改善するが止まるわけではないので、真の「永続可能な社会」ではない。
- なぜなら現状の経済（貨幣、所有、相続、競争）そのものが貧富を生み出し、消費を拡大する仕組みになっているからである。